

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
廿日市市立大野西小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	4	3	4	4	4	4	23	5	28

2 加配教員が専科指導を行う教科及び過当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	5	4	3	12	
理科	6	4	3	12	

授業時数 計 24 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 24 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	B	A	A	C	推進	専科	D	専科	専科	A	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	A	A	C	推進	専科	D	専科	専科	B	B	B	B
6年 3組 (担任: C)	B	A	A	D	推進	専科	D	専科	専科	C	C	C	C
6年 4組 (担任: D)	B	A	A	C	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: E)	E	E	H	G	推進	専科	E	専科	E	専科	E	E	E
5年 2組 (担任: F)	F	E	H	F	推進	専科	E	専科	F	専科	F	F	F
5年 3組 (担任: G)	F	G	H	G	推進	専科	E	専科	G	専科	G	G	G
5年 4組 (担任: H)	F	G	H	G	推進	専科	E	専科	H	専科	H	H	H

4 高学年担任が指導を行う教科等及び過当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	32	A	6-2	書写	1	12	10	22
			6-3	書写	1			
			6-4	書写	1			
			6-2	社会	3			
			6-3	社会	3			
			6-4	社会	3			
6-2	31	B	6-1	国語	4	12	10	22
			6-3	国語	4			
			6-4	国語	4			
6-3	30	C	6-1	算数	5	15	6	21
			6-2	算数	5			
			6-4	算数	5			
6-4	29	D	6-3	算数	5	9.2	10	19.2
			6-1	図工	1.4			
			6-2	図工	1.4			
			6-3	図工	1.4			

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数 (d)	授業時数の合計 (c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
5-1	28	E	5-2	図工	1.4	5.2	13	18.2
			5-3	図工	1.4			
			5-4	図工	1.4			
			5-2	書写	1			
5-2	27	F	5-3	国語	4	8	15.6	23.6
			5-4	国語	4			
5-3	28	G	5-4	書写	1	11	12.6	23.6
			5-1	算数	5			
			5-4	算数	5			
5-4	27	H	5-1	社会	2.9	8.7	9.5	18.2
			5-2	社会	2.9			
			5-3	社会	2.9			

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	・学年に応じて担当する教科を精選している。特に高学年では、国語や算数、社会科などの教科で専門性の高い教師が指導している。
②	・廿日市市で実施しているアセス(学校適応感調査)や居場所感調査などを活用して、児童理解に努め、それらの結果に基づいた取組を進めている。 ・学年会を中心に、児童の様子を日頃から報告し合いながら取組を進めている。
③	・中学校の生徒が小学校で授業を行う「リトルティーチャー」の取組を進めている。 ・中学校の教師が小学校の授業を兼務するなど、交流を進めている。
④	・40分授業を取り入れ、午前中に5コマ、午後に1コマの授業を実施することで放課後の自由に使える時間を確保している。



〈成果〉	
①	・同じ授業を複数回行うことにより、課題に修正を加えながら授業を進めることができた。
②	・複数の教員でアセスメントすることで、教員一人では気づくことのできなかつた児童の困り感に気づくことができた。
③	・成長した中学生の姿に憧れをもつ児童が増えた。 ・中学校の教師の授業を受けることにより、中学校生活に向けての見通しをもつことができた。
④	・時間割の工夫により、午後3時以降の放課後にゆとりができ、教材研究や学年会の開催など、教師が自由に使うことのできる時間が増えた。

〈課題〉	
①	・教師の担当時数の関係で苦手な教科を担当せざるを得ない実態がある。
②	・学年のルールの徹底など、教師の細かい言い回しの違いで指導の一貫性を保つことができない事例があった。
③	・教師によって授業態度を変えてしまう事例があった。
④	・授業の担当時数に差があることで、担当時数の多さに負担を感じる教師があった。



〈対策〉	
①	・中学校の教師と交流することでより専門性の高い授業を保証していく。
②	・大切な内容については電子黒板を使って一斉配信するなど、指導の一貫性に努めていく。
③	・児童が、自分の目標をもって授業に取り組んでいくことができるよう指導していく。
④	・空き時間の多い教師が他学級の補助に入るなど、学年での対話を通して、改善できるよう取り組んでいく。